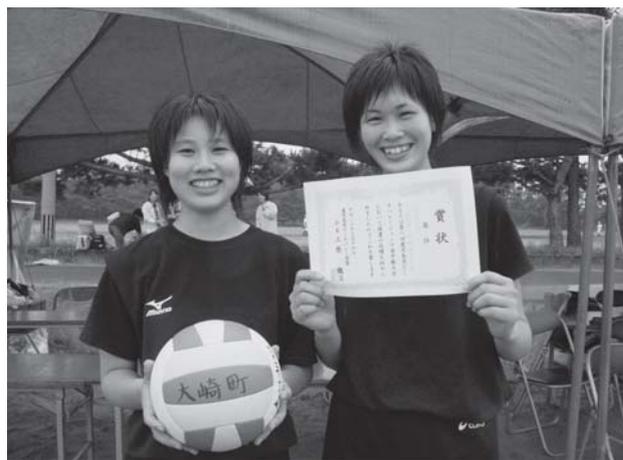


『中沖分館グラウンド完成！』

6月1日(日)、中沖公民館横に一面芝生のグラウンドが完成したことを記念し、グラウンドゴルフ大会が行われ、地域住民約150人が参加しました。

3,500㎡にもおよぶ“緑のじゅうたん”は、太陽の光をいっぱい浴びて伸び伸びとしていました。参加者もきれいなグラウンドでのプレーに大変満足している様子で、終日、笑い声が響いていました。

これから様々な行事が開催されるであろう『中沖分館運動場』。地域住民の憩いの広場として活躍してくれそうです。



『全国大会への切符をかけて』

6月14日(土)、大崎町ビーチスポーツ専用競技場(大丸グラウンド前)において、鹿児島県ビーチバレージュニア男女選手権大会が開催され、県内の高校から38チームが全国大会への切符をかけて熱戦を繰り広げました。

ときおり小雨の降るなか、男子は鹿屋工業高校が4年ぶり3回目、女子は志布志高校が2年連続2回目の全国大会出場を決めました。

女子は、大崎中学校出身の志布志高校2年丸目祐さん(写真左)のペアが優勝し、「まだ信じられません。決勝戦は楽しくプレーしようと臨みました。」と話していました。

全国大会での活躍を期待します。

『めだかの学校が開校！』

『農地・水・環境保全向上対策』の一環で、本町の“上永吉地区みどり会”が6月8日(日)に『めだかの学校』を開校しました。

『めだかの学校』は、様々な理由によって減ってしまった上永吉地区に生息するメダカを採取し、室内の管理の行き届いた場所で育て、ふ化したメダカの稚魚を放流し、地域全体のメダカの量を増やし、地域本来の豊かな生態系の保全を図ることを目的として開校されました。

当日はあいにくの雨の中、地域内の子ども会の児童27人とその保護者21人の計48人が参加しました。メダカの採取は雨により水路の水かさが増え採取できず、事前に採取したメダカを1家庭にオス・メス1匹を配布。開校式の後には近くの水路で魚釣りも行われ、子ども達の楽しそうな声が響いていました。

